

令和5年度 市長のタウンミーティング実施報告書（西布施地区）

会場名	西布施公民館	日時	10月17日(火) 19時00分 ～20時45分
市側の出席者	市長 村椿 晃 企画部長、総務部長、産業建設部長、民生部長、教育委員会事務局長、情報広報課長、地域協働課長、情報広報課 広報広聴係長(司会)		
参加者数	29名	YOUTUBE 動画	視聴者数(最高時点) 12人 チャット(投稿数) 2件



1.市長講話

市長 村椿 晃 「自治基本条例・各地域におけるコミュニティセンターについて」
(20分程度 資料に基づき講話)

2.事前質問(地区から事前にいただいた提言・提案等について)

①防災無線の音声がかえづらい

(村椿市長)

はっきりと、みなさんにわかるように伝えないといけないのですが、仕組み上、全てクリアに聞こえるようにすることは難しいです。この問題は、他の市町村にもあります。

この防災行政無線のスピーカーは市内13地区に全部で43か所設置されていて、西布施地区の場合は3か所あります。雨や風の状況など天候によっても左右されるので、合わせていろんな方法で情報をお伝えしています。例えば、市のホームページ、防災メール、yahooの防災アプリ、ケーブルテレビ、最近だと市の公式LINEも使っています。

その他に防災ラジオも配布しているのですが、1番最初に配布し始めたのが10年以上前なので、中には壊れたものもあるかと思えます。福祉の方で1000個ぐらい入れたり、令和3年に自主防災組織の役員の皆さんに100個あまり配布したりといったことを順次行っています。

「これで解決」という方法がないものですから、今、いろんな方法で継続するというをまずお伝えして説明に変えさせていただきます。

②市民生活に直結する市補助金等を網羅した冊子の作成
(村椿市長)

「いろんな助成制度があってよく分からない」という疑問は、その通りだと思っています。移住者を対象にした資料はありますが、市民に対する助成制度を網羅したものは、ホームページを見てもすぐにわからないかもしれません。

実は今日、面白い話を聞きました。皆さん、チャット GPT や AI って聞いたことがある方もいらっしゃると思います。どういうことかという、これまでだったらホームページで検索、例えば「福祉、1人暮らし、応援補助金」と打ち込んで、それに該当するようなものがあるかないか調べるとというのがこれまでの世界だったとしたら、チャット GPT、AI の世界はどうかという、テレビ画面みたいなどころにあるマイクのボタンを押して、今みたいに「福祉、1人暮らし応援制度、魚津市には何がありますか」と話す。そうすると、画面に出る、あるいは喋って答えてくれる。こういう仕組みが実際にもう出てきています。

問題はコストです。便利ではありますが、そのためにどれだけお金がかかるのかというところもあります。おそらく、システムが普及をしてくれば「ものを調べる」というのはとても簡単になってきます。今の段階では、正しい情報をしっかりと AI が伝えてくれる仕組みにするのに、もうしばらくかかります。

たくさんの情報を入れると、冊子はわかりにくくなります。ですから、おそらくこれからの時代にあった仕組みも取り入れながら、より市民の皆さんに正しい、分かりやすい、情報の伝え方を作っていくことになっていくと思っています。

③魚津市の魅力を市外に発信する施策について具体的に示していただきたい。
(村椿市長)

市の魅力を人に知らせることは「シティプロモーション」と言われるのですが、シティプロモーション事業で作ったものの一つに、旬の情報を掲載したリーフレットペーパーがあります。また、最近は動画も活用しています。1つ目は魚津四季という3分ぐらいの紹介動画。これは昨年の市制70周年の式典のオープニングの時に流しました。2つ目は、高校生に高校生から見た魚津の良さを考えてもらって作った「おかえり魚津」。魚津出身の子が都会に憧れて都会の会社に勤めるけれども、忙しい生活の中でふと魚津に帰って、魚津駅から正面に見える景色を見て、改めて魚津市の良さを再認識する、そんなストーリーの動画を作ってもらいました。そしてもう1つ、「誰も知らない食の町」。魚津出身のタレントさんに出演をしてもらって、魚津の美味しい食の魅力をいっぱい盛り込んだ動画です。

その他に、SNS 広報で Instagram や Facebook などの媒体を活用しています。観光 PR もいろんな場所に行って展開していますし、移住の話で言うと、地域おこし協力隊など地域の方がいろんなことを発信しています。そういった力を借りて、実際に体験をして、その良さや魅力を伝えてもらうことも取り組んでいます。

④天神山城跡が市の文化財指定なのに市当局で草刈り等は実施しているのか？
(村椿市長)

天神山については魚津の歴史、文化を語るうえでシンボルとなる場所なので、地域の皆さんだけでなく他の地域からも熱心に活動していただいていると思っています。市の公園として管理する方はいないものですから、ボランティアなどに支えられている

のが現状です。できるだけ地域の皆さんと一緒に対応していこうということで、たくさんの職員が関わっているので、これからもみんなで守っていきたいと思っています。

3. 意見交換（地区からの提言・提案等について）

○ 防災行政無線が聞こえないのもっと増設してほしい

（村椿市長）

防災無線の数を増やせば聞こえるようになるのかどうかは、正直わかりません。ある程度はカバーできると思いますが、お金との兼ね合いもあります。防災無線がいいのか、個別にわかるような仕組みがいいのか、しっかり考えていきたいと思っています。

（総務部長）

防災行政無線の根本的な改善は難しいですが、その他のツールを活用しながら合わせて防災関係の情報を皆さんに伝えていく取り組みをやっていきます。

防災行政無線を補うものとして防災ラジオがあるのですが、この防災ラジオも、いずれアナログ波が停波となった時に、現状配布させていただいているものは受信できなくなるといった課題が出てくると考えております。

そうした中で、スマートフォンをお持ちの方の割合が多くなってきているので、緊急情報配信メールを登録いただいて、どこにいても情報が分かるというところに持っていきたいと思っています。機会を通じながら緊急情報配信メールの登録を呼び掛けたいと思っております。新聞の折り込みなどを考えているところです。

防災無線の増設については相当な経費がかかるということで、防災行政無線以外のツールも活用しながらやっていることをご理解いただきたいと思います。

○ コミュニティセンター化にあたり、各地区で行っていることを情報共有してほしい。

また、中央センターのような施設を作してほしい。

（村椿市長）

情報の公開・共有は大事だと思いますし、やります。市全体で集まる場として、物理的に中央センターみたいなものを作るのは難しいですが、例えば年に何回か、四半期ごとに意見交換会をするための場を作るといったことは十分できると思うので、まずそういうようなことを考えたいと思います。

○ コミュニティセンターに変えることで、公民館職員の給与が下がるなどのデメリットはあるか

（村椿市長）

このコミュニティセンターの話が始まるまでには議論がいくつかありました。1つは公民館職員の雇用の問題です。公民館制度の時は、基本的に魚津市の会計年度任用職員や市の職員でした。会計年度任用職員とは、要するに市の職員が公民館で事務をして地域の活動をお手伝いしているということです。それで、コミュニティセンター化するとき、市の職員ではなくて地域雇用に変わるというお話をしたら、「地域で責任を持つということか」との議論が市議会であって、それについて意見が交わされました。

まず、このコミュニティセンター化によって職員さんの処遇がダウンしたり不安定になることはありません。「地域雇用に切り替えることが前提か」と聞かれましたが、そうではなくて、市の職員の身分のままでコミュニティセンターに移行できます。指定管理の話も一斉にやらなくてもいいです。地域によって取り組みの差があるので、その活動も理解が得られてからやりましょうという話です。

令和6年からコミュニティセンターに統一ということですが、中身は先ほど言ったように、指定管理などはすぐでなくてもいいです。令和9年度が目標になっています。

○ 将来的に地元負担が大きくなるか心配である。いつか公民館職員の給料を地域が負担することになるのではないか。

(村椿市長)

地域活動に要する経費については、世帯人口が減ると1件あたりの負担が大きくなるというのはおっしゃる通りなので、そういった時にどういう風にカバーしていくかを一緒に考えないといけないと思います。公民館の職員の話は、議会でも答えています。市が全額出していくという話になっているので、そこはご理解ください。

先ほど「地域の特性を生かした収益事業が可能になります」と言ったその大前提は、公務員ではないということです。もし地域事業を展開することになると、市の会計年度職員という公務員の身分を持ったままでは商売できない。ここが1番のネックです。

ですから、地域事業をしないということであれば、今の公務員の身分のままで、従来の社会教育活動などをずっとやっていくという話になるのですが、もし地域資源を活用した活動もやっていきたいという話になれば、指定管理制度とセットで地域雇用という話が出てきます。ここが一番のポイントなので、どちらを選んでいくかは、地域の皆さんで相談してもらってやっていくことになります。

○ 警察署の廃統合について、今どこまで話が進んでいるのか教えてほしい。

(村椿市長)

県警に、魚津市は旧総合体育館を候補地としたいと伝えています。黒部市からは2箇所出ていて、もう1箇所が入膳になっています。全部で4箇所候補があがっているのですが、県警は、この後地域協議会の意見を聞いていくとの考えです。県西部のプランが先に進行していて、そちらの統合警察署の整備を令和9年度ぐらいにして、こちらはその後という考え方を取っている感じです。

我々としては、「新たに土地の取得をする必要がなく、8号線にも面していてとてもアクセスのよい所なので機動性がありますよ」と強くお願いしていますが、最終的に決めるまでにはまだまだかかりそうだなというのが今の状況です。

○ 新川文化ホールの子ども施設について、今どこまで話が進んでいるのか教えてほしい。

(村椿市長)

新川文化ホールの子ども施設については、新田知事が県議会で「令和9年度の完成を目指して取り組みます」と答弁してらっしゃいますが、今は、令和6年度に民間業者からの

提案を受ける準備をしている段階です。PFI といって、県が直接工事をするのではなく民間業者さんが事業をして何十年間かかけてその費用を払っていく方法を取るのだと思いますが、その民間業者を選定するための準備を今年しています。ですから、令和 9 年度という年は決まっているものの、新川文化ホールの敷地のどこに整備していくかということはまだ決まっています。

県がそのような段階ですので、こちらとしても皆さんにこの敷地のこの場所でこういうものを作りますというご説明はできかねるのが現状です。

○ 新聞に水族館の改修について出ていたが、ぜひ一刻も早く進めてほしい。

(村椿市長)

市が招いた水族館プロデューサーの方が講演で、「これから今の水族館と同じ 4000 平米程度の規模の新しい水族館を作るとしたら、どのくらいかかるか」という話をしてくれました。それを市が単独で作るのは難しいだろうから、富山湾全体をテーマにした水族館として県も巻き込んでやるのが合理的ではないのかという提案です。あくまで提案ですから、我々はそれを題材にして勉強していくところです。5 年後とか 10 年後に作ると明言する段階ではありません。

しかし、水族館は魚津市のシンボルです。しかも富山湾をテーマにした本当に夢のあるプロジェクトなので、これをそのままやるかどうかは別にしても、県あるいは民間のパートナーが見つければ早く進めることもできるし、我々は市と一緒にやってくれる相手を見つけて進めていきたいと思っています。

○ 市役所新庁舎の予算についてはどうなっているのか。新しいテクノロジーを使った仕事のやり方や、人がどんどん減っていく中でどこまでの規模のものが必要なのかなど、よく考えて作っていただきたい

(村椿市長)

新庁舎については、令和 5 年度と 6 年度の 2 年かけて、基本構想と基本計画作りを進めることとし、今ある市役所の周辺で整備をしていくという方向を昨年 of 末に決めました。しかし、その中でどれだけの規模のものを作るかはこれから決めるところです。今の庁舎と教育委員会が入っている分庁舎、上下水道の分庁舎、健康センターまで全部合わせると 1 万平米ほどありますので、それだけのものを新しく作るとしたら 60 億ぐらいかかります。そして、今ある建物を壊すのに 8 億、その他の整備に 2 億、合わせて 70 億ほどかかるというのが検討する時の土台です。必ずそれだけかかるわけでもないし、ひょっとしたらそれで収まらないかもしれません。

今はまだそういう状況ですが、20 年、30 年後の環境変化の社会変化に対応できるような作り方が重要だと思っています。設計コンサルさんにもそういう考え方を伝えて、そこも含めて考えていきます。